

カワヤツメ

Lampetra japonicum

ヤツメウナギ科



カワヤツメ

名前の由来

川にすむヤツメの意。目の後ろに1列に並ぶ7個の鰓孔を眼に見立てて、本当の眼と合計してヤツメ（八眼）と呼ばれる。漢字名：川八目

特定種

十勝のものは特になし。

（「道南のカワヤツメ個体群」が、北海道レッドデータ...

地域個体群(Lp)に指定)

形態的特徴

全長40~50cm。細長く、えら穴が両側に7つ。背ビレは2つで第2背ビレの前部と尾ビレは黒色。口は吸盤状であごを持たない。

変態後の若魚は、15~20cmで眼が著しく大きく、体側が強い銀白色となる。

幼生（アンモシーテス）の尾ビレは、黒。

類似種と見分け方

スナヤツメ、シベリアヤツメ。

成体はカワヤツメが大きく20~50cmなのに対し、シベリアヤツメやスナヤツメは大きくても20cm程度。スナヤツメの吸盤上の歯は先端が丸いのに対し、カワヤツメはとがる。シベリアヤツメでは上口歯板上のもの以外はとがらない。カワヤツメの若魚が銀白色になるのに対し、シベリアヤツメは決して強い銀白色にならない。幼生(アンモシーテス)

の尾ビレは、カワヤツメが黒、シベリアヤツメが淡色、スナヤツメが透明。



若魚に変態したばかりのカワヤツメ

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産卵期〈河川〉												
幼生期〈河川〉												
若魚〈河川〉												
降海期〈河川〉												
若魚〈海〉												
秋遡上・越冬型〈河川〉												
春遡上型〈河川〉												

2~4年で変態

2~3年

産卵後死ぬ

遡上・越冬

産卵後死ぬ

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

一 生

産卵は春から初夏。幼生として川底の柔らかい砂泥にもぐって暮らし、3～4年後の夏の終わりから秋にかけて変態、冬を川で越してから雪解けとともに降海する。

2～3年間海で暮らした後、秋に川へ遡上、越冬して翌春に産卵するか、5～6月に遡上して産卵する。産卵後死ぬ。(寿命は5～7年?)

生息環境・分布

幼生時は下流・中流の有機物を含む砂泥の中にすみ、越冬は腐泥の中や湿性植物や水生植物が繁茂した河岸でおこなわれる。

変態後、水生植物などが繁茂したところや礫の間に砂泥が堆積したような場所で越冬した後、海に下る。

秋に遡上するタイプは有機質が堆積するような大石のすき

間、倒木下、河岸の植物内などで越冬する(妹尾優二)。

分布：朝鮮半島、沿海州、サハリン、シベリア、アラスカに分布。

国内分布は、北海道、島根県および茨城県以北。

十勝地方では、十勝の川の下流～中流域に広く分布。幼生は特に下流域の流れが緩やかな中小河川に多い。

食 性

幼生は泥の中の有機物などをろ過して食べる。

変態した後の若魚は、海中生活期には寄生性となり、他の魚に吸着して歯で肉を削り取り体液を吸収するという。

成魚になると餌を採らない。

繁殖生態

産卵期は5～6月に川をのぼって産卵するものと、9～10月に川を上り翌年の春に産卵する2つの系群がある。

産卵場所は河川中流域、浅瀬の砂礫底。1尾のメスに数尾のオスが追尾し、オスメス共同で河床に産室を掘る。オス

がメスの頭に吸い付いて巻き付き、互いに体を震わせて放卵・放精をおこなう。産卵数は7万～11万。水温12～16℃で14～18日でふ化するという。

他生物との関わり

幼生や若魚は、湿性植物や水生植物の繁茂した河岸で越冬する。

興味深い話

■ビタミンAの含有量がきわめて高く(特に肝油)、医薬品の原料にされる。昔から夜盲症(とり目)の特効薬とされた。

■蒲焼き、つけ焼き、みそ仕立ての鍋などにして食べる。生殖腺が未熟なものほどうまいといい、また捕獲後時間が経過したものには独特のにおいやアクが出るという。

■北海道における河川漁業生産量の1/3をカワヤツメが占める。

■かつてヤツメウナギの幼生は、別の仲間(属)だと考えられ、アンモシーテスAmmocoetesとの属名が付けられた。現在ヤツメウナギ類の幼生をアンモシーテスと呼ぶのはそ

の名残。

■十勝地方のアイヌ語では、ヤツメウナギ類を「ヌクリペ」と呼ぶ。他の地方ではウクリペ(食う気になれぬ・魚)と呼ぶという。



カワヤツメの頭部。「八目」が見られる

配慮事項

幼生時には泥中の落ち葉などの有機物を食べるため、これらの有機物がたまる大きな州や河岸の変化によって形成される入り江などが必要である(妹尾優二)。

降海・遡上をするので川と海との行き来ができることが必要。遊泳力はあるがジャンプ力がないため、水脈の縦断的な縁切は禁物(妹尾優二)。

参考文献

「漁業生物図鑑 北のさかなたち」長澤和也・鳥澤雅 編、(株)日本海洋センター 1991

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984

「検索入門 川と湖の魚①」川那部浩哉・水野信彦、保育社 1989

「川づくりのための魚類ガイド」北海道河川環境研究会、(財)北海道建設技術センター、2001

「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲 監修、(財)リバーフロント整備センター編集、山

海堂、1996

「日本動物大百科 第6巻 魚類」日高敏隆 監修、平凡社、1998

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書3 アイヌ語十勝方言の基礎語彙集 -本別町・沢井トメノのアイヌ語-」澤井春美(編・著)、北海道立アイヌ民族文化研究センター、2006

★妹尾優二：(株)エコテック、流域生態研究所

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ